

HONG KONG LINER



(写真・右上から時計回りに) 香港經濟貿易代表部の何珏珊 (ジョイス・ホー) 首席代表、経団連の棕田哲史専務理事、香港政府投資推進局の蔣学礼 (ジミー・チャン) 局長代理、香港貿易發展局の游紹斌 (ベンジャミン・ヤウ) 日本首席代表

香港の商機についてのセミナーを経団連と共催

「最近の香港情勢と商機」をテーマに、香港の最新事情を日本企業向けに紹介。何珏珊首席代表も講演

7月27日、日本経済団体連合会（経団連）と香港經濟貿易代表部が共催したオンラインセミナー「最近の香港情勢と商機」が開催され、経団連の会員各社から約80人の参加者が集まりました。

セミナーでは、香港經濟貿易代表部の何珏珊（ジョイス・ホー）首席代表、香港政府投資推進局の蔣学礼（ジミー・チャン）局長代理、香港貿易發展局の游紹斌（ベンジャミン・ヤウ）日本首席代表が、政治や経済、新型コロナウイルス感染症の状況などに関する香港の最新情勢を紹介し、日本企業に開かれている投資・事業機会について洞察を共有しました。

何首席代表は講演で、香港は社会秩序と安定を取り戻しており、新型コロナについても世界的な基準から見て状況にうまく対応していることを強調。さらに、香港は法の支配と堅固な規制制度に裏打ちされた、自由で開放的な経済体

であり続けていると述べるとともに、中国本土経済の急速な回復によって香港経済は目に見えて持ち直しており、金融市場は引き続き好調だと指摘しました。

また、香港は独自の強みを備えた中国唯一の国際都市であり、日本企業は香港で、あるいは香港を通じて事業を行うことによって、その強みを活用し、便益を享受することができることも述べています。香港は今後も、中国本土と世界をつなぐビジネスと投資のゲートウェイとしての役割を果たしていくとした上で、何首席代表は日本企業に対して、香港企業との提携や香港での会社設立により、低い税率とシンプルな税制、強力な知的財産権保護といった香港のメリットを利用しながら、中国本土市場に広がるチャンスをつかんではどうかと呼びかけました。

当日のプレゼンテーション資料は下記、当代表部のウェブサイトに掲載されています。

何珏珊首席代表、自民党幹事長を表敬訪問

二階俊博幹事長との会談で、香港と日本の協力関係の強化について意見を交換

香港経済貿易代表部の何珏珊（ジョイス・ホー）首席代表は7月5日、自由民主党の二階俊博幹事長（役職は当時）を表敬訪問し、香港と日本の関係と協力の強化について意見を交換しました。

会談には、同党の林幹雄幹事長代理と小泉龍司国際局長（いずれも役職は当時）も同席しました。



(写真・左から) 香港経済貿易代表部の胡鉅華（トーマス・ウー）代表、范國訊（アンドリュー・ファン）次席代表、何珏珊（ジョイス・ホー）首席代表、自民党の林幹雄幹事長代理、二階俊博幹事長、小泉龍司国際局長

日本からの到着者に対する新たな搭乗・隔離要件

8月9日からはワクチン接種を完了していれば、香港居民以外も香港への入境が可能に。隔離は14日間

香港ではワクチン接種率が順調に上がり、新型コロナウイルス感染症の流行状況は落ち着きを見せています。これを受けて、香港特別行政区政府は香港に到着する人の搭乗・隔離要件を更新し、8月9日からは非香港居民も一定の条件を満たせば、香港を訪れることができるようになりました。

新たな措置の下では、香港行き航空便への搭乗日または香港到着日、あるいはそれに先立つ14日間に、日本など中リスクの「グループB」に分類される海外の地域に滞在し、ワクチン接種を完全に済ませている人は、香港居民であるか非香港居民であるかを問わず、香港への入境が許可されています。入境後は、指定隔離ホテルで14日間の隔離を行う必要

があります。

搭乗・隔離要件の詳細に関する最新情報は、下記からご覧ください。

www.coronavirus.gov.hk/eng/inbound-travel.html



東京オリンピックで香港選手が歴史的な好成績

46人の選手からなる香港チーム、過去最多のメダル6個を獲得。金メダルは1996年アトランタ五輪以来

香港は東京オリンピックでメダル6個（金1、銀2、銅3）を獲得。これは、オリンピックにおける香港史上最高の成績です。13の競技に参加した46人のアスリートからなる香港選手団は、東京オリンピックで歴史的快挙を達成しました。

- フェンシング男子フルーレ個人（金） 張家朗（エドガー・チョン）選手
- 競泳女子100m自由形（銀）、同200m自由形（銀） 何詩蓓（シボーン・ホーヒー）選手
- 自転車女子スプリント（銅） 李慧詩（サラ・リー）選手
* 2012年ロンドン大会の女子ケイリン（銅）に続くメダル獲得
- 卓球女子団体（銅） 杜凱琰（ドー・ホイカン）選手、蘇慧音（ミニー・スー）選手
李皓晴（リ・ホチン）選手
- 空手女子形（銅） 劉慕裳（グレース・ラウ）選手



張家朗（エドガー・チョン）選手



何詩蓓（シボーン・ホーヒー）選手



(写真・左から) 杜凱琰（ドー・ホイカン）選手、李皓晴（リ・ホチン）選手、蘇慧音（ミニー・スー）選手



劉慕裳（グレース・ラウ）選手



李慧詩（サラ・リー）選手

[写真提供：中国香港スポーツ連盟およびオリンピック委員会]

香港のスポーツ振興 イニシアティブ

香港体育学院拡張計画の
前倒しに9億香港ドル
(約127億円)

プロ化を推進し
スポーツ産業を育成

アスリートの能力強化
のための基金設立に、新規で
3億香港ドル（約42億円）

専業アスリート
向けに高等教育の
機会を創出

学校体育の
発展を促進

香港で一層のスポーツ振興を 図る取り組み

香港チームが過去最高の成績を収めた東京オリンピック閉幕後の8月10日、香港政府はあらゆる面からスポーツの振興を図ることを目指し、数億香港ドル規模の総合的イニシアティブを発表しました。

今回打ち出された施策には、香港体育学院の新施設建設計画を前倒しで実施して2024年の次回オリンピック前に供用開始できるようにすることや、アスリートの競争力強化のために3億香港ドルの基金を設立することが含まれています。この基金はスポーツ科学・医療分野の研究、アスリートの装備や用具の改良、スポーツ関連機関や施設の追加設備購入のために使われ、障害者アスリートを含む一流アスリートをサポートします。

香港はより力強く、さらにその先へ

首席代表から日本の皆さまへのメッセージ。香港独自の強みは健在。中国の機会をつかむパートナーに



香港経済貿易代表部 首席代表
何珏珊 (ジョイス・ホー)

香港は常に自由で開かれた社会であり、日本をはじめとする国際社会と緊密なつながりを持ってきました。しかしながら近年、社会不安や地政学的な緊張の高まり、そして新型コロナウイルスのパンデミックなど、かつてない課題が香港に突きつけられる中、香港の現況について日本でも懸念が示されていることは承知しています。さまざまな方と意見交換を行ううちに、認識の問題があることに気が付き、それがしばしば間違った情報や偽情報に基づいていることが分かりました。日本の本社と香港の子会社の間にも、認識のギャップが生じています。こうした認識の問題に取り組むべく、具体的な事実とデータを挙げていきたいと思えます。

昨年、国家安全維持法が施行されて以来、香港は社会秩序と安定を取り戻しました。事業活動への脅威がなくなったため、景況感も回復しています。香港の住民と企業はその国籍にかかわらず、基本法および香港に適用されている国際規約の規定の下で保障されている権利と自由を引き続き享受しています。在香港日本国総領事館、ジェトロ香港事務所と香港日本人商工会議所が在香港の日系企業を対象に実施した7月の調査では、業績が前四半期と比較して改善したと回答した企業の数が増加していることが示されました*1。

香港は公共衛生の面でも安全な場所です。積極的な検査・追跡、ソーシャルディスタンス措置やさまざまな感染拡大防止策を通じて新型コロナウイルス感染症の流行を抑えるために政府を挙げて厳格な対応を取ったことにより、香港は世界的な基準から見ても、香港はパンデミックの状況にうまく対処してきました。そのため、地元での感染はほぼ封じ込まれています。COVID-19ワクチン接種プログラムは今年2月に開始し、9月までに香港市民のワクチン接種率を7割にまで引き上げることを目指しています。

香港は公共衛生の面でも安全な場所です。積極的な検査・追跡、ソーシャルディスタンス措置やさまざまな感染拡大防止策を通じて新型コロナウイルス感染症の流行を抑えるために政府を挙げて厳格な対応を取ったことにより、香港は世界的な基準から見ても、香港はパンデミックの状況にうまく対処してきました。そのため、地元での感染はほぼ封じ込まれています。COVID-19ワクチン接種プログラムは今年2月に開始し、9月までに香港市民のワクチン接種率を7割にまで引き上げることを目指しています。

地元での流行状況が安定したことを受け、香港行き航空便への搭乗日または香港到着日、あるいはそれに先立つ14日間に日本に滞在した非香港居民でワクチン接種を完了している人は、8月9日から香港への入境が許可されました。搭乗時にワクチン接種証明書を提示した人は香港の指定ホテルで14日間の強制隔離が求められず*2。

香港の感染者比率は世界有数の低さにあるため、私たちの戦略は現在、経済の立て直しと雇用の創出に焦点を当てています。香港特別行政区政府は企業を支え、失業を防ぎ、困窮者を支援するため、これまでに約390億米ドルを注入しました。2021年第2四半期の経済成長率は前年同期比7.5%と4四半期連続で伸びており、香港経済が勢いを増しつつあることは明るい兆しです。中国本土経済のすばやい回復に後押しされ、今年の実質GDP成長率は3.5~5.5%になると予測しています。また、失業率も17年ぶりの高水準となった7.2%から、ほぼ1年前のレベルにまで改善しました。

香港の金融市場は回復力があるばかりでなく、活気を一層増えています。新規株式公開(IPO)調達額ランキングで香港は、過去12年のうち7年で世界一でした。2020年7月から2021年6月の1年間に香港で調達されたIPO資金は640億米ドルを超え、50%以上の増加となりました。香港ドル高も続いています。また、5月末時点で香港の総預金残高は1兆9,150億米ドルに達しており、これは前年比5%増です。昨年末時点の香港における運用純資産額も、2019年末から約20%増加しました。

加えて、基本法の下で保障されている香港独自の強みは引き続き盤石で、一切損なわれていません。これには「一国二制度」、法の支配、独立した司法、資本の自由な流れ、英語の使用、住民の基本的権利、情報の自由な流れ、知的財産の保護が含まれます。9,000社もの海外や中国本土の企業が香港に拠点を置き、その44%が地域統括本部や地域事務所であることは、香港に対する企業の信頼の証です。

香港は日本との関係を大変重視しています。当代表部が4月26日に開催したオンラインセミナーで、林鄭月娥(キャリー・ラム)行政長官が日本のビジネス界に向けて自ら講演を行ったのも、その表れと言えるでしょう。セミナーで林鄭長官は、「一国二制度」の下、香港は自由で開かれた社会であり続けると改めて明言するとともに、8,600万人の人口と合計1兆7,000億米ドルのGDPを擁する広東・香港・マカオ大湾区に生まれる商機を、香港をパートナーとして捉えるよう日本企業に呼びかけました。

今年3月に発表された中国の第14次5カ年計画(2021~2025年)で、香港の位置付けはさらに強まりました。中国本土は、国際金融・貿易・輸送センター、またアジア太平洋地域における法律・紛争解決サービスセンターとしての香港へのサポートを強化することに加え、香港が国際的なイノベーションとテクノロジーのハブ、国際航空ハブ、東洋と西洋が出会うアートと文化の国際交流ハブ、そして地域の知的財産取引ハブとして発展することを支援します。これらすべてが香港に豊富な事業機会をもたらす、香港のパートナーとなる日本企業もこのチャンスを分かち合うことができるのです。香港での会社設立や香港企業との提携により日本企業は、低率で簡素な税制や強力な知的財産保護といった香港の利点を享受しながら、中国本土市場を開拓することができます。

この数十年の間に、アジア金融危機、世界金融危機からSARS、COVID-19まで、香港は数多くの試練を乗り越えてきました。その度に香港は、以前よりも力強く立ち直ってきたのです。この先も香港は中国本土の急速な発展から生まれる機会を最大限に活用し、信頼できるパートナーとして共に歩んできた海外企業と繁栄を分かち合っていきます。同じように、香港と日本の緊密な関係が今後ますます発展し、香港と日本が中国本土の膨大なビジネスチャンスをつかむため、双方に利益のあるパートナーシップを築いていくことを信じています。

*1 今年7月の調査において、21年4~6月の業績が前四半期と比較して「改善」と回答した企業の割合は37.9%で、1年前の調査の22.6%から増加

*2 詳細はこちら

https://www.hketoty.gov.hk/common/pdf/groupb_table_jp.pdf

新駅の開業でMTR屯馬線が全面開通

新界の東西と九龍中心部をつなぐ路線に宋皇台駅と土瓜湾駅がオープン。宋皇台駅では出土品の展示も

6月27日、香港鉄路（MTR）の2つの新駅が開業しました。今回、宋皇台駅と土瓜湾駅がオープンしたことで、屯門と馬鞍山をつなぐMTR屯馬線は全線開通となりました。

新界の東西と九龍の中心部をつなぐ屯馬線は、全長56kmと香港で最長の鉄道路線です。全27駅のうち6駅でさまざまな既存路線に乗り換えることができ、沿線で暮らし、働く人の交通の便が向上しました。また、新駅周辺地域の活性化も

期待できます。

宋皇台駅の付近にはかつて重要な歴史遺跡があったことから、駅の建設時に出土した宋銭や陶磁器、建築物の一部など、厳選された約400点の遺物を駅構内で展示しています。現役の鉄道駅でこれほど多くの出土品が展示されるのは香港で初めてのことであり、考古学的発見に関する市民の理解を深める助けとなっています。



宋皇台駅では、駅の建設時に発見された陶磁器や建築物の一部などの出土品を展示

新たにオープンした駅の1つ、宋皇台駅は九龍城区に位置

政府は「香港クリーンエア計画2035」を発表

2035年までに香港の大気質を改善し、より住みやすい街にするための青写真。6つの主要分野で行動を提起



香港政府は6月29日、「香港クリーンエア計画2035」を発表しました。この計画は「健康生活・低炭素化・世界一流」をビジョンに掲げ、2035年までに香港の大気質を改善するための課題と目標、戦略を定めたものです。

発表にあたり黄錦星（ウォン・カムシン）環境長官は、「香港クリーンエア計画2035」はこれまでの成功を未来につなげ、2035年までに香港を世界の主要都市と同等の大気環境を備えたより住みやすい都市にするとともに、長期的には世界保健機関（WHO）の空気質ガイドラインが定める最高水準の完全達成に向けて進むための青写真だと述べました。

同計画では、環境負荷の少ないグリーン輸送、住みやすい環境、全面的な排出削減、クリーンエネルギー、科学的管理、地域協力という6つの主要な分野を特定し、各分野でのアクションを提起しています。

香港は「2021年世界競争力年鑑」で第7位

主要評価項目のうち「政府の効率性」で首位をキープ。サブ項目でも「ビジネス法制」で引き続きトップ

国際経営開発研究所（IMD）がこのほど発表した「2021年世界競争力年鑑」で、香港は世界第7位にランクインしました。

「2021年世界競争力年鑑」の4つの主要評価項目のうち、

香港は引き続き「政府の効率性」で首位となりました。サブ項目についても、「ビジネス法制」で依然としてトップを守ったほか、「国際貿易」、「租税政策」、「財政」、「経営慣行」でも、世界ランキング上位3位以内に入っています。

ソフトバンクロボティクス 香港地場企業と新規事業立上げ

ソフトバンクロボティクスグループは、新型コロナウイルス感染症拡大で高まる世界的な需要に対応すべく、高度な衛生技術を誇る香港のバイオメディカル企業 Avalon SteriTech Ltd（アバロン社）と合併事業を立ち上げました。従来の衛生の概念を超える高機能で効果的なソリューションを開発し提供するため、同グループのAI、オートメーション、ロボティクスとアバロン社のバイオテクノロジー、ヘルスケアといったそれぞれの強みを融合させ、ともに香港だけでなく世界への製品提供を目指します。ソフトバンクロボティクス香港 セールスディレクターのロナルド・イップ氏は、「本合併事業は、技術開発面に加え、地場企業アバロン社と組むことで、域内ビジネス環境を最大限に活用する（不動産開発会社や不動産管理会社との提携など）良い例です。今後、香港での雇用拡大や、R&Dとアフターサービス対応オフィスの新規開設も視野に入れていきます」と語ります。



ソフトバンクロボティクス香港のセールスディレクター、ロナルド・イップ氏

NAMCO 香港に新しいエンタテインメント体験を提供

40年以上に渡り香港においてアミューズメント施設の企画・運営を行っているNAMCO Enterprises Asia Limited社は、「屋内・冒険の島ドコドコ」の海外初店舗『DOCODOCO The LOHAS店』をオープンしました。最新のデジタル技術とアナログな遊びの融合により“夢いっぱいの冒険”を演出、子供たちの想像力を目一杯刺激し、純粋なリアクションを引き出します。同社社長 菊池修一氏は、「香港の人々は進んで新しいことに挑戦する意欲があり、消費意欲も高く、日本から新しいコンセプトを持ち込むとすぐに反応が



DOCODOCOで遊ぶ子供たち

得られます」と、香港は新しいゲームを試すのに適した場であると語ります。また、香港スタッフの仕事への積極性と顧客サービス水準を高く評価しています。同社は現在11か所で屋内アミューズメント施設を運営しており、150名以上の従業員がそれらの施設で働いています。香港では感染症の流行が拡大する状況下においてもエンターテインメント施設の需要が高まっており、同社は今後もオフラインとオンラインの双方で新規ビジネスを計画しています。



Namco Enterprises Asia Limited
社長 菊池修一氏

香港の新たなランドマーク、啓徳スカイガーデン

旧啓徳空港の滑走路跡地に誕生。飛行機を思わせるデザインの多機能デッキには全長約1.4kmの遊歩道

5月21日、旧啓徳空港の滑走路跡地に啓徳（カイトック）スカイガーデンが開園しました。約2ヘクタールに及ぶこの広大なパブリックスペースは、新たな街のランドマークとなっています。

啓徳スカイガーデンは航空機や空港をデザインのテーマとしており、全長約1.4kmの遊歩道を備える多機能デッキは飛行機の機体を模しています。ほかにもベンチや歩道などにかつての啓徳空港を思い起させる要素が盛り込まれていて、懐かしい思い出がよみがえることでしょう。

敷地内には80種類以上の木々や低木が植えられ、遊歩道では春夏秋冬をテーマにした4つのゾーンが設けられています。訪れた人は四季折々の異なる色彩を楽しめるだけでなく、香港の植物の多様性を知ることができます。

その他の主な施設としては、ビクトリア・ハーバーの壮大な眺めを一望できる展望ギャラリーや水遊びエリア、文化・レクリエーション活動向けの多目的円形劇場などがあります。

詳細は下記のサイトをご覧ください。

www.skygarden1331.hk



旧空港の滑走路跡に誕生した香港の新しいランドマーク、啓徳スカイガーデン



さまざまな木々や低木が植えられた遊歩道



ライトアップで夜の滑走路の雰囲気再現



飛行機の翼と胴体を模した多機能デッキ。地上から見るとその形がよく分かる



水遊びを楽しめるエリア



着陸の難しさで知られた旧啓徳空港の滑走路13/31にちなんで、遊歩道の両端には「13」と「31」の数字が

SPOTLIGHT HONG KONG



ハーバー・チル

5月28日、湾仔フェリー埠頭近くに「ハーバー・チル (HarbourChill)」がオープンしました。“街の裏庭”をコンセプトに、さまざまなデザインのアズマヤ、テーブル、椅子やブランコが設置されています。約1,800㎡のスペースは以前、大規模なインフラ建設事業の作業エリアとして使用されていました。



リバー・オブ・ライト

世界的に有名なアーティスト、パトリック・シャーンによるインスタレーション。ビクトリア・ハーバーに着想を得た作品で、空中に吊るされた無数のカラフルなリボンがゆらゆらと立体的な動きを表現します。6月にビクトリア・ハーバー沿いのセントラル・ハーバーフロントで展示されました。



32年間にわたりビクトリア・ピークを運行してきた第5世代のピーク・トラムが6月末に引退。引退前の期間には、香港をテーマとした特別なアートワークを施した車両が運行していました。ピーク・トラムは6月28日から約6カ月間、改修プロジェクトのため運行を休止中で、再開時には第6世代の車両がその後を引き継

ぎます。

1888年に運行を開始したピーク・トラムは、世界でも有数の歴史と知名度を誇るケーブルカーです。130年以上の間、地元の人々や観光客を運び、単なる交通手段から香港屈指の観光名物へと進化しました。

ピーク・トラムは第6世代へ



香港特別行政区政府 駐東京経済貿易代表部 (香港経済貿易代表部)

〒102-0075 東京都千代田区三番町 30 番 1 号 香港経済貿易代表部ビル

Tel : 03-3556-8980 Fax : 03-3556-8970 (代表部)

Tel : 03-3556-8961 Fax : 03-3556-8960 (投資推進室)

E-mail : tokyo_enquiry@hketotyo.gov.hk

www.facebook.com/hketo.tokyo/

www.instagram.com/hketo.tokyo/

www.twitter.com/hketotokyo

香港経済貿易代表部の
ホームページです!

香港特別行政区政府
ポータルサイト

www.gov.hk

政府広報局提供の
無料ニュースサービス

www.news.gov.hk

ブランド香港
Facebookページ

www.facebook.com/brandhk.isd

www.hketotyo.gov.hk

